



数字が好きなAさんにカレンダーを通して生活の見通しを伝える際にも、「次は◎◎日に帰りますよ、一緒に頑張りましょうね」と思いを代弁した言葉を

特集

「強度行動障害」を考える

昨今、「強度行動障害」のある人の家族が直面する厳しい生活実態や深刻な社会資源不足について報道などで取り上げられる機会が増えました。また、教育や福祉の現場では、行動障害のある人への対応について大きな悩みを抱えていることが多く報告されています。

強い「こだわり」や激しい自傷・他傷行為などの行動の意味を理解し、見通しをもって支援をしていくことは決して簡単なことではありません。今回の特集では、学校、働く場、暮らしの場での実践や家族の声を通して、大切にしたいことを考えていきたいと思います。

強度行動障害のある人の理解と支援

岐阜大学

別府 哲

「本人の力を振り絞った意思表示」

これはグループホーム入所という生活環境の変化に際しAさんが行なった激しい自傷行為について、職員での話し合いで出た言葉です。

Aさんは過去の自傷行為で右目を失明しています。そんなAさんがグループホームに入所するという大きな生活の変化に直面します。それは月々金が作業所・グループホーム、土日が実家というものでした。Aさんはそれまで週2日のショートステイは経験しており、そこでは折り鶴を毎日100羽ほど折っていました。当初Aさんはグループホームでも折り鶴を折り続け、ショートステイと同様、服は旅行かばんからホームの衣装ケースに収納しませんでした。この生活の変化をショートステイの延長ととらえることでどうかその不安をやり過ごしていたと考えられます。しかし家族の健康の変化によ

り急遽、実家への帰宅が月一度しかできなくなります。それが精神的な不安定さと激しい自傷行為を伴うパニックの頻発になったのでした。

支援者集団は、自傷で左目の視力にまで影響がでないよう、支援者が必ずAさんの側で見守り、自傷行為があった場合は制止することを最優先にします。しかしその重要性は確認しつつも、「叩かないでください」「やめてください」と言って自傷行為を制止するだけでよいのかという議論になります。それは、伝達手段の少ないAさんにとって、自傷行為は本人の力を振り絞った意思表示ではないかと支援者集団がとらえたことによります。

会議で議論を重ね、自傷行為を止めることは継続しつつ、その際の声かけを「やめてください」と行為を否定するものでなく、「みんなのき（Aさんの通う支援センターの名前）、頑張ってますね」というものに変えます。Aさんが「みんなのき」で頑張ってる様子を感じていること、自傷行為はそのなかでのAさんの不安や嫌だという気持ちの意思表示であることを認め、それに寄り添う声かけにしたのです。

添えるようになります。Aさんの思いを大切にするため、グループホームでの楽しい経験の機会をつくるとりくみも増やします。

Aさんはそのなかで、ある日からグループホームでは折り鶴作りをやめ、服を衣装ケースに片づけるようになりました。グループホームで暮らすことをAさんなりに受けとめた姿だと感じます。それに伴い不安定さがなくなり、自傷、他傷が激減したのです。

支援が困難な行動に込められた当事者の思いを考える

強度行動障害は、もとの英語はchallenging behavior（チャレンジングビヘイビア）であり、障害名ではありません。対応に困難が生じるほどの激しい行動―自傷行為、他傷行為、破壊行動など―を指すものです。障害ではなく行動だとすれば、そこには行動に込められた当事者の思いや理由があるはずですが。Aさんの自傷行為をただ制止するのではなく「本人の力を振り絞った意思表示」と考えたのは、支援者集団がAさんの思いがあることを信じ、それを考えようとしたからこそ可能になりました。自分の思いをわかろうとしてくれた支援者の関わりを支えに、Aさんも自分の生活や変化を受けとめられるようになり、それが自傷や他傷を減らしたと考えられます。

強度行動障害は、その行動の激しさゆえに行動をなくすことが最優先とされる時があります。自閉スペクトラム症で強度行動障害を示す人に対し、混乱を引き起こす余分な刺激を与えない指導はその一例です。生活を見通しがもちやすいも